

組織活動報告（フィールド科学系部門）

フィールド科学部門 窪田 浩和

フィールド科学系部門と配属先

フィールド科学系部門は、主に生物圏科学研究科の施設に派遣される生物生産技術班と理学研究科の施設に派遣される生物科学班の二班で構成される。生物生産技術班のスタッフは西条ステーション、竹原ステーション、工作機械・食品製造実験実習棟、精密圃場、宮島植物実験所、植物管理室、附属両生類研究施設、そして附属臨海実験所の4施設に派遣され、各々に業務を行っている。この部門の特徴として生き物相手に教育研究を行っている。

生物生産技術班（西条ステーション）

生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの西条ステーションでの主な業務は施設管理、家畜管理、飼料作物管理の3つですが、それに加えて教育・研究の支援を幅広く行っている。

生物生産技術班（施設管理）

施設管理の仕事は幅が広いので、限られた時間の中で他の業務と並行して行っている。





生物生産技術班（家畜管理）

家畜管理は乳牛40頭，肉牛50頭，中小家畜40頭を飼育する業務です。

管理内容としては，給餌，搾乳，放牧，人工授精が挙げられる．これらの技術を生かして学生実習などの教育支援と研究支援を行っている．

生物生産技術班（飼料作物管理）

当ステーションでは自給を目指しており，家畜の飼料作物生産も行っている．植え付けから収穫までの一連の作業を少人数で効率的に行っているが 除石などは大変労力のかかる仕事です．

生物生産技術班（竹原ステーション）

附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの竹原ステーションです．

ここでは研究はもちろんのこと，県内外の生徒を対象とした実習を幅広く行っている．

派遣されたスタッフは施設の管理をはじめ，教育・研究の支援を行っている．

生産技術班（工作機械・食品実験実習棟）

工作機械実習棟は通称，工作室と呼ばれ主に生物圏科学研究科に必要な農学系独特の工作依頼を処理する施設です．

食品製造実験実習棟は通称，食品工場と呼ばれ食品製造学の実験実習および食品に関する実験や研究をおこなう施設です．

ともに運営と管理は生物生産技術班のスタッフがやっている．



生物生産技術班（精密圃場）

精密圃場と呼ばれる本施設は主に植物を研究する圃場と研究用動物を飼育・管理する畜舎の2つが有る。

これらの施設を生物生産技術班のスタッフが管理し教育・研究の支援を行っている。

生物科学班（宮島自然植物実験所）

宮島自然植物実験所では宮島のすぐれた自然を生かして植物や自然環境の保全・保護に関する教育・研究活動を行なっている。

生物科学班スタッフは学生の実習や卒業研究・大学院特別研究の指導や地元小・中・高等学校の野外教育を行っている。

また、植物観察会などを通じた地域社会との積極的な交流、その他植物学全般に関する活動まで幅広く貢献している。

生物科学班（植物管理室）

ここでは理学部の植物・生物学系講座の教員や学生が実習などの教育や色々な研究を行っている。

施設内には研究や実験のための温室・樹木園（じゅもくえん）・実験圃場などがあり、生物科学班スタッフがその管理を行っている。

生物科学班（両生類研究施設）

両生類研究施設は、カエル、イモリ、サンショウウオなどの両生類のみを専門的に研究している研究施設です。

本施設では、飼育のしやすい両生類だけでなく他機関では飼育の難しいカエルなどの飼育繁殖を行っている。

生物科学班スタッフは、施設の管理やエサ用のコオロギの飼育を行うことで研究に貢献している。



生物科学班（臨海実験所）

尾道市向島町にあります臨海実験所です。

ここは様々な海洋生物を研究するために研究者や学生が常駐・来所している。

生物科学班スタッフは海産動物の研究・飼育，また，学生実習の支援も行っている。



フィールド科学系部門の地域貢献

フィールド科学系部門で行っております地域貢献の様子です。

上の2枚は西条ステーションで行っております地域貢献です。

左が中学生の農場体験学習の様子です。また，毎年幼小中合わせて1500名の子どもの見学がある。

右が農場祭の様子です。毎年大学祭に合わせて行っており3000名近くの来場者で賑わいます。今年度から本格的に技術職員が参加して搾乳体験，燻製体験，ふれあい動物コーナーを行った。

下の写真は食品工場で行っている地域市民のための食品製造実習の様子です。

これからの課題として，フィールド科学部門全体としての地域貢献を考えていきたい。